

2019 年卒
Vol.04

3 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2019 学生モニター調査結果 (2018 年 3 月発行)

2019 年卒者の採用広報が 3 月 1 日に解禁され、多くの学生が就職活動を本格的にスタートした。「キャリアス就活 学生モニター」の解禁直後の就職活動状況や意識について調査を行ったところ、前年同期調査に比べ全体的に動きが早まっており、ハイスピードで進んでいることがわかった。

1. エントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は 22.4 社。前年調査 (26.3 社) を 3.9 社下回る
- 今後の予定社数の平均は 13.3 社。前年調査 (16.4 社) より 3.1 社少ない

2. セミナー・会社説明会への参加状況

- 企業単独セミナーへの参加社数は 3.0 社で前年と同数。今後の参加予定は 11.2 社

3. OB・OG 訪問の状況

- OB・OG 訪問経験者は 16.1%。「マッチングサービスを通じて探した」19.3%

4. 選考試験の受験状況

- エントリーシート提出者は 40.9%。筆記試験受験者 41.8%。面接試験受験者 36.0%。
いずれも前年同期を上回る

5. 3 月 1 日現在の内定状況

- 内定率は 8.0%。2 月 (4.6%) より 3.4 ポイント上昇。前年同期 (6.0%) を 2 ポイント上回る
- 内定者の 9 割以上 (90.1%) が就職活動を継続

6. 現時点の志望業界

- 1 位「水産・食品」、2 位「素材・化学」「情報処理・ソフトウェア」。「銀行」は 5 位に

7. 理系学生の就職意識

- 「自由応募のみで活動」が増加 (55.1%→58.9%)。「推薦のみで活動」は 2.3%

8. 今後の就職活動の方針と終了希望時期

- 就職活動を終えたい時期は 6 月上旬が最多 (22.6%)。6 月を待たずに終えたい学生が 2 割超

9. 企業研究を行う上で知りたい情報

- 上位項目は「実際の仕事内容」「社風」など。「福利厚生制度」「教育・研修制度」が増加

10. 人工知能 (AI) 導入についての考え

- 「自分に合う企業を勧めてくれる」機能は約 7 割が肯定的。AI による選考は過半数が反対

調査概要

- 調査対象 : 2019 年 3 月に卒業予定の大学 3 年生 (理系は大学院修士課程 1 年生含む)
回答者数 : 1,258 人 (文系男子 412 人、文系女子 405 人、理系男子 288 人、理系女子 153 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2018 年 3 月 1 日~6 日
サンプリング : キャリタス就活 2019 学生モニター (2016 年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

◆本資料に関するお問い合わせ先 : 03-4316-5505 / 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

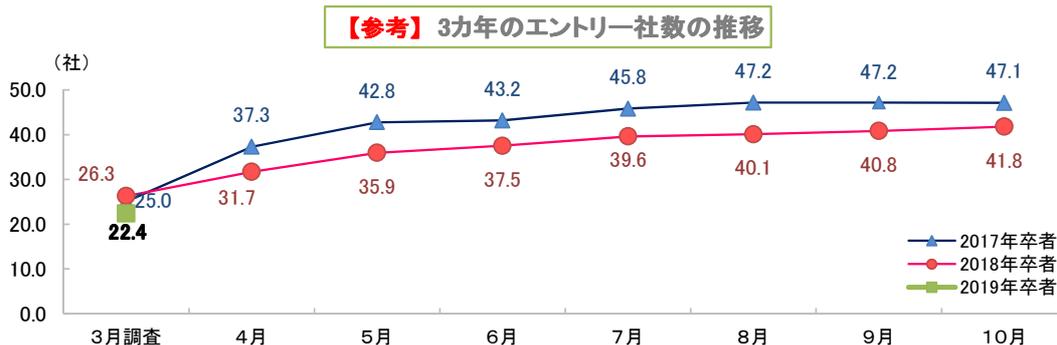
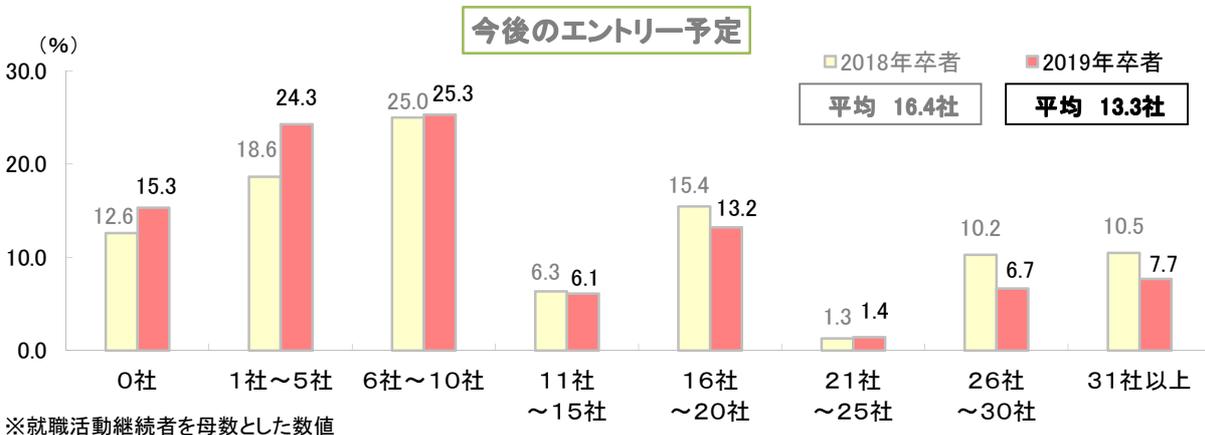
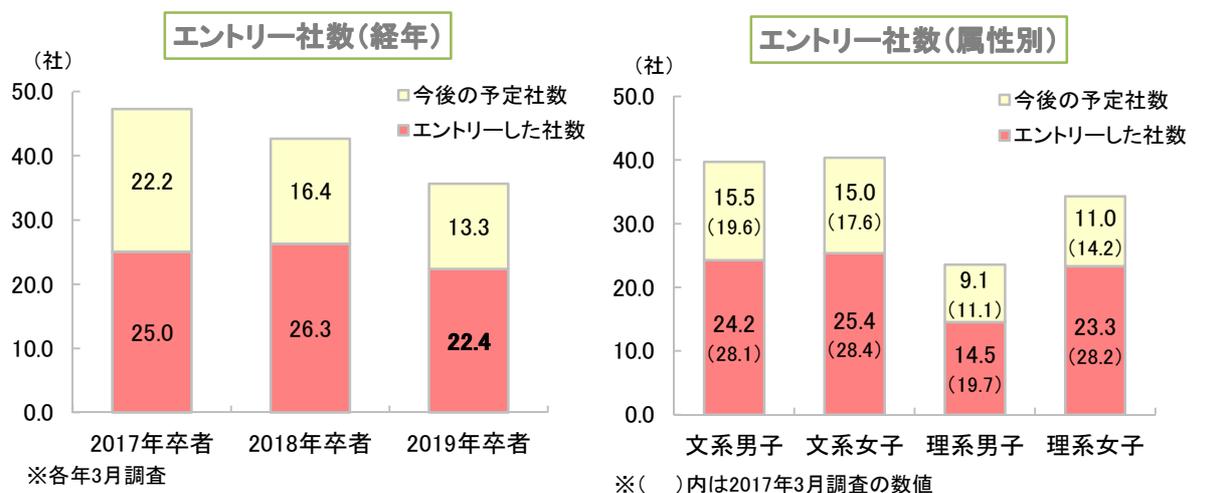
1. エントリー状況

2019年卒者の就職活動が本格的にスタートした。まず全体的な活動量を確認したい。

一人あたりのエントリー社数の平均は22.4社。前年同期調査(26.3社)を3.9社下回り、割合にすると15%近く減少している計算だ。さらに、今後のエントリー予定社数は平均13.3社で、前年同期調査(16.4社)より3.1社少ない。エントリーのタイミングが遅いのではなく、絞り込みが進んだ結果だと捉えるのが妥当だろう。今年の就活生の最終的なエントリー社数は前年を下回る可能性が濃厚だ。

エントリー社数を属性別に見ると、文系より理系で、より落ち込みが目立つ。

なお、今後のエントリー予定社数は就職活動継続者のデータであるが(就活終了者は除いて集計)、「0社」との回答、つまり志望企業へのエントリーは済んでいるという認識の者が15.3%いた。



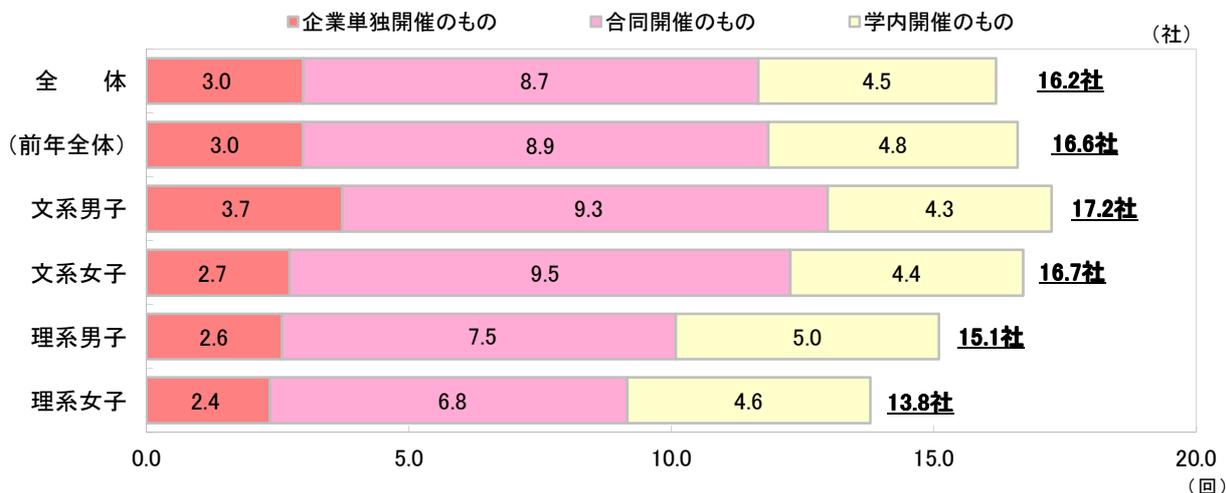
2. セミナー・会社説明会への参加状況

セミナー・会社説明会の平均参加社数はのべ16.2社で、前年同期（16.6社）をやや下回った。合同開催のもの（小セミナーやブース等への訪問）が8.7社で半数強を占める。企業単独開催のもの（単独セミナー）は3.0社で前年同期と変わらない。

企業単独セミナーはこれから参加のピークを迎えるが、今後何社くらいの参加を予定しているのかを尋ねてみたところ、平均は11.2社だった。参加社数（3.0社）と足し合わせると約14社になる。前年度の最終的な参加社数実績は16.8社であり（2017年10月調査）、エントリー同様、やや減少する見込みだ。

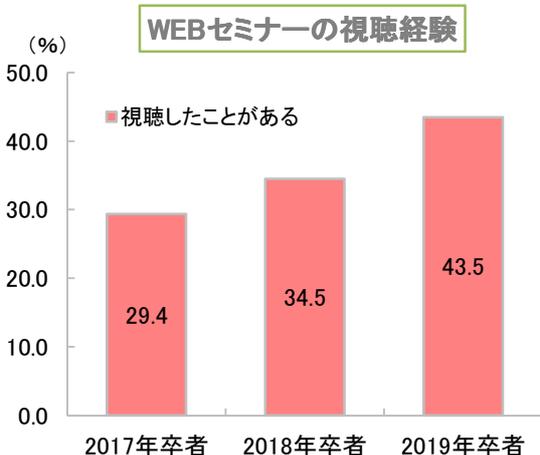
一方で、WEBセミナーの視聴は増加している。視聴経験を持つ学生は43.5%で、前年（34.5%）を9ポイント上回った。平均視聴社数は、ライブ中継が4.5社、オンデマンド（録画）放送が2.4社。とりわけライブ中継の視聴が伸びている。WEBセミナーは会場まで足を運ぶ必要がなく、気軽に視聴できるため、限られた期間で効率よく企業研究を進めたい学生にとって有用な情報源として活用が進んでいるだろう。

セミナー・会社説明会参加社数と内訳

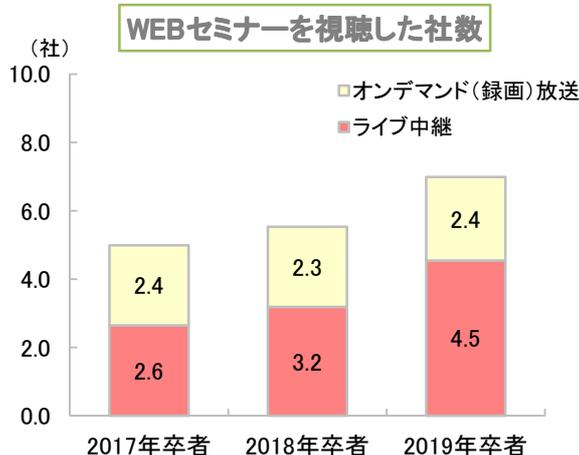


	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
合同開催セミナーへの来場	2.1	2.2	2.3	2.4	1.6	1.6
学内開催セミナーへの来場	1.7	1.8	1.7	1.7	1.7	1.8

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
今後の企業単独セミナー参加予定社数	11.2	12.4	12.4	8.2	10.6



※各年3月調査



3. OB・OG 訪問の状況

現時点で、自ら個別に連絡をとって「OB・OG 訪問をした」と回答した学生は全体の 16.1%。割合はまだ多くないものの、セミナーなどに登壇する社員だけでなく、個人的に探した人と話をすることで、より深く企業の実態を知りたいという気持ちがあるのだろう。

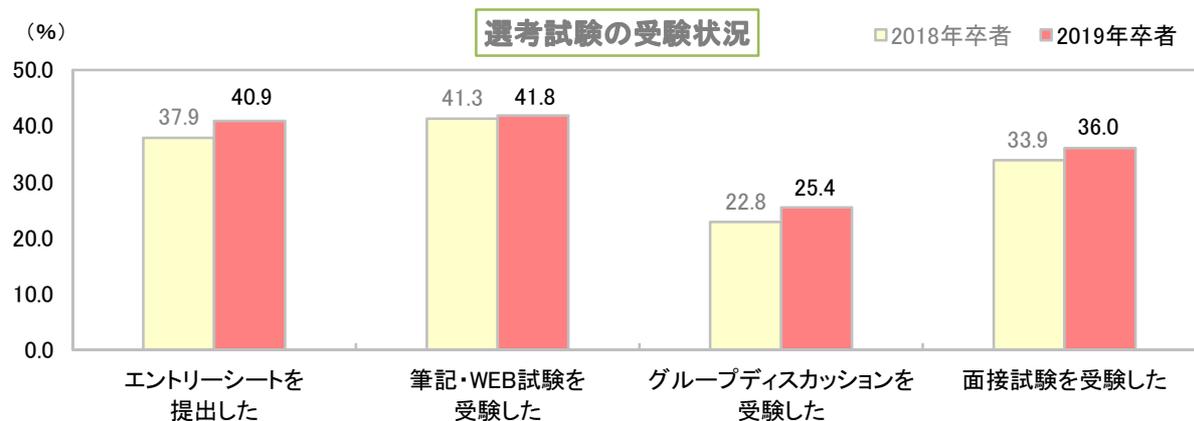
OB・OG 訪問の相手を探す手段で多いのは「知人・友人の紹介」(26.7%)、「部活・サークルの卒業生から探した」(23.8%) など従来型の伝手を頼る方法だが、「マッチングサービスを通じて探した」が 3 番目に来ており(19.3%)、話を聞きたい相手を能動的に探す手段として活用されている様子が見えてくる。

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
OB・OG訪問をした	16.1	21.1	14.8	12.2	13.1



4. 選考試験の受験状況

エントリーシートを提出した学生は全体の 40.9%。4 割以上が早くも提出経験をもつ。提出社数の平均は 3.5 社。筆記・WEB 試験を受験した学生も 4 割を超え(41.8%)、面接試験受験者が 36.0%に上るなど、いずれも前年同期を上回る経験率だ。企業の動きが前年より早まっているからだろう。



選考試験の受験社数 (社)

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	3.5	3.8	3.9	3.3	2.9	3.6
筆記・WEB試験	2.6	2.5	3.1	2.2	2.2	2.3
グループディスカッション	2.2	2.0	2.6	1.9	2.0	1.7
面接試験	2.3	2.4	2.9	1.9	2.1	2.0

5. 3月1日時点の内定状況

2019 年卒者の就職戦線は始まったばかりではあるが、調査時点ですでに内定を手にしていう学生は全体の 8.0%。2 月調査 (4.6%) から 3.4 ポイント上昇した。前年同期 (6.0%) を 2 ポイント上回る。ただし、内定取得者のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは 7.9% とまだ少数。前年同期調査で 2 割を超えていたのとは対照的だ。

内定率を属性別に見ると、いずれも前年同期を上回るが、特に文系男子が大きく増え 1 割を超えているのが目立つ (10.4%)。

3月1日現在の内定状況

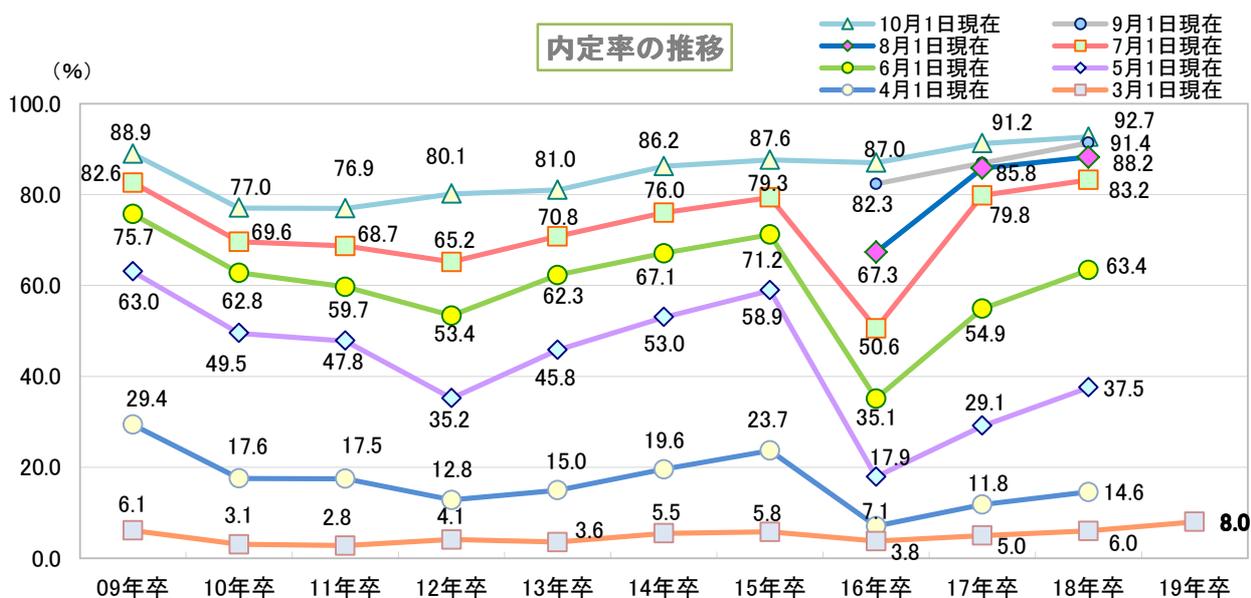
*「内定」には、内々定を含む

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		8.0 (6.0)	10.4 (6.8)	5.2 (4.5)	8.3 (5.9)	8.5 (8.0)
内定なし		92.0 (94.0)	89.6 (93.2)	94.8 (95.5)	91.7 (94.1)	91.5 (92.0)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	7.9 (20.9)	11.6 (8.8)	4.8 (31.6)	8.3 (30.0)	0.0 (23.1)
	活動は終了したが複数内定保持	1.0 (0.0)	2.3 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
	進学などの理由で就職活動を中止	1.0 (0.0)	0.0 (0.0)	4.8 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)
	就職活動継続	90.1 (79.1)	86.0 (91.2)	90.5 (68.4)	91.7 (70.0)	100.0 (76.9)

(%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.2 (1.3)	1.2 (1.4)	1.1 (1.4)	1.2 (1.1)	1.2 (1.2)

(社)



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17卒・18卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

6. 現時点の志望業界

3月1日の時点で志望業界を「決めている」学生は88.0%。就活解禁時として高い決定率であることに変わりはないが、前年同期(92.7%)に比べ4.7ポイント低い。志望業界を決めずに就職活動をする学生が増えているとも取れる。

「決めている」と回答した人に具体的な志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらったところ、「水産・食品」が最も多く(17.3%)、「素材・化学」と「情報処理・ソフトウェア」が同率で2位だった(16.7%)。「水産・食品」「素材・化学」を選んだ学生の割合は前年とほとんど変わらないが、前年1位だった「銀行」が5位へと順位を下げたことで順位が繰り上がった。銀行は文系では上位だが、男女ともポイント数が大きく下がったこと(文系男子31.0%→23.7%、文系女子25.1%→20.5%)、理系の志望者が極めて少ないことが全体順位に影響した。理系は男子においてIT業界の人气が高く、女子は「水産・食品」「素材・化学」「医薬品・化粧品」が3割を超え、特定の業界に集中している。

志望業界の決定状況

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
決めている	88.0	92.7	85.9	85.4	92.0	92.8
決めていない	12.0	7.3	14.1	14.6	8.0	7.2

志 望 業 界 (上位20業界)

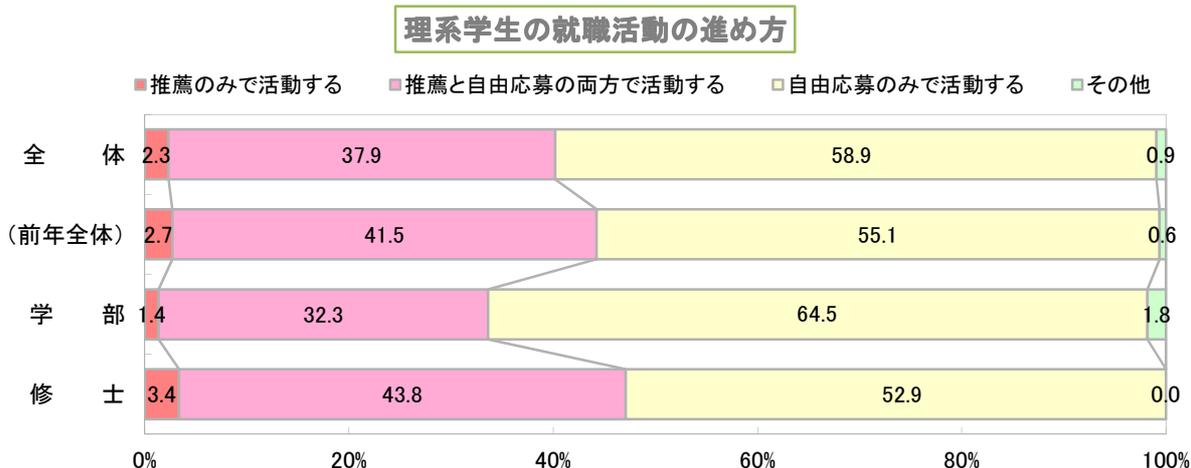
		※5つまで選択 (%)								
	全 体	文系男子		文系女子		理系男子		理系女子		
1	水産・食品 ②	17.3	銀行	23.7	マスコミ	23.7	情報・インターネットサービス	25.3	水産・食品	39.4
2	素材・化学 ③	16.7	商社(総合)	18.1	銀行	20.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	24.5	素材・化学	37.3
	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ⑤	16.7	調査・コンサルタント	18.1	商社(専門)	17.1	電子・電機	24.5	医薬品・医療関連・化粧品	34.5
4	情報・インターネットサービス ⑥	16.4	官公庁・団体	16.7	建設・住宅・不動産	16.8	自動車・輸送用機器	21.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	16.2
5	銀行 ①	15.3	運輸・倉庫	16.4	水産・食品	16.2	素材・化学	21.1	官公庁・団体	12.7
6	医薬品・医療関連・化粧品 ④	14.9	商社(専門)	16.1	官公庁・団体	15.6	機械・プラントエンジニアリング	19.2	建設・住宅・不動産	12.0
7	建設・住宅・不動産 ⑥	14.5	情報・インターネットサービス	16.1	運輸・倉庫	14.5	医薬品・医療関連・化粧品	15.5	調査・コンサルタント	11.3
8	官公庁・団体 ⑨	14.4	建設・住宅・不動産	15.0	商社(総合)	14.5	水産・食品	14.3	通信関連	11.3
9	マスコミ ⑧	13.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	15.0	ホテル・旅行	13.9	精密機器・医療用機器	12.8	情報・インターネットサービス	10.6
10	調査・コンサルタント ⑩	13.6	保険	15.0	医薬品・医療関連・化粧品	13.6	調査・コンサルタント	12.5	精密機器・医療用機器	9.9
11	運輸・倉庫	12.9	マスコミ	13.8	保険	13.0	通信関連	12.5	エネルギー	9.2
12	電子・電機	12.7	素材・化学	12.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	12.7	建設・住宅・不動産	12.1	機械・プラントエンジニアリング	7.7
13	商社(専門)	12.3	水産・食品	11.6	情報・インターネットサービス	12.4	エネルギー	11.7	商社(専門)	7.7
14	商社(総合)	12.2	証券・投信・投資顧問	11.3	人材紹介・人材派遣	11.3	運輸・倉庫	10.9	マスコミ	7.0
15	自動車・輸送用機器	11.0	電子・電機	11.3	調査・コンサルタント	11.0	官公庁・団体	10.6	自動車・輸送用機器	7.0
16	保険	10.5	人材紹介・人材派遣	9.3	教育	10.4	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	9.4	電子・電機	7.0
17	機械・プラントエンジニアリング	8.9	エネルギー	8.5	素材・化学	9.2	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.2	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス	6.3
18	エネルギー	8.7	自動車・輸送用機器	8.2	エンターテインメント	8.7	農業・林業・鉱業	6.0	農業・林業・鉱業	6.3
19	精密機器・医療用機器	8.3	医薬品・医療関連・化粧品	7.9	印刷・パッケージ	7.8	商社(総合)	5.7	OA機器・家具・スポーツ・玩具他	5.6
	通信関連	8.3	鉄鋼・非鉄・金属製品	7.9	電子・電機	7.5	マスコミ	4.5	保険	5.6

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

7. 理系学生の就職意識

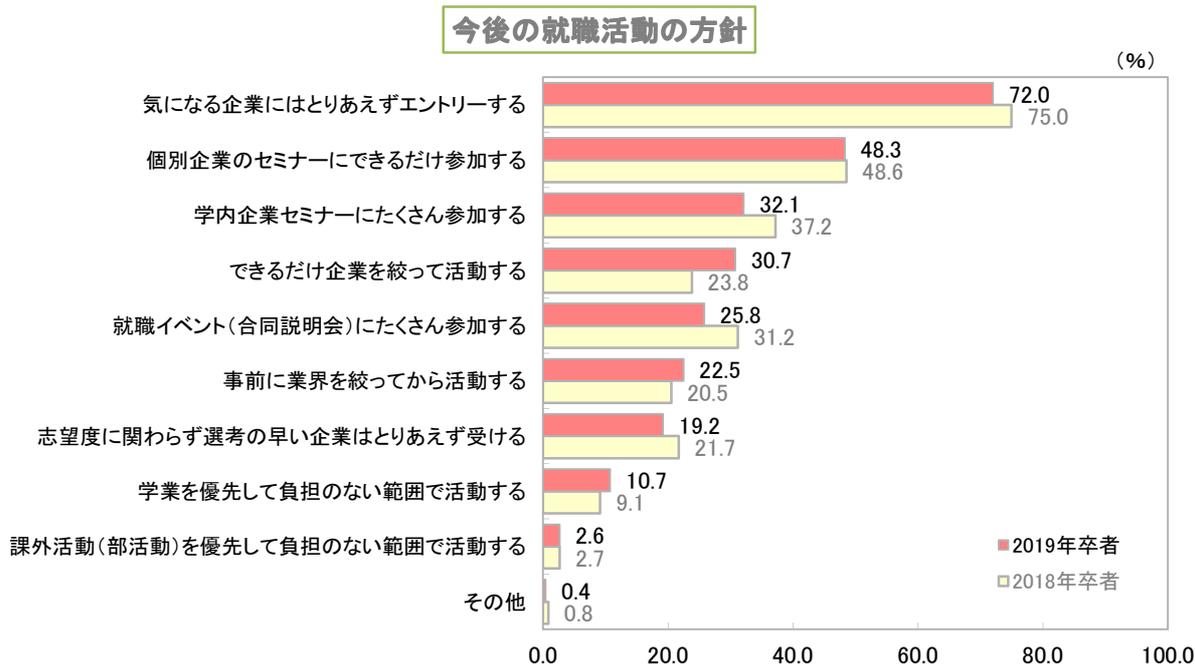
理系学生に対し、就職活動の進め方について「推薦か自由応募か」という観点で尋ねた。「推薦のみで活動する」「推薦と自由応募の両方で活動する」という学生はいずれも前年より減少。「自由応募のみで活動する」が最も多く、約6割を占める (58.9%)。

なお、学部生に比べ企業からの推薦依頼の多い修士学生では、推薦利用予定者は約半数 (計 47.2%) に上る。



8. 今後の就職活動の方針と終了希望時期

今後の就職活動の方針を尋ねた。最も多くが選んだのは、「気になる企業にはとりあえずエントリーする」で7割を超えている (72.0%)。次いで「個別企業のセミナーにできるだけ参加する」(48.3%)、「学内企業セミナーにたくさん参加する」(32.1%)と続く。幅広く情報収集して興味のもてる企業を探したいと考えている学生が大半だ。ただし、いずれも前年調査を下回った。一方「できるだけ企業を絞って活動する」(30.7%)、「事前に業界を絞ってから活動する」(22.5%)は前年よりポイントが増加しており、志望先を絞って活動する学生が増加していることがうかがえる。



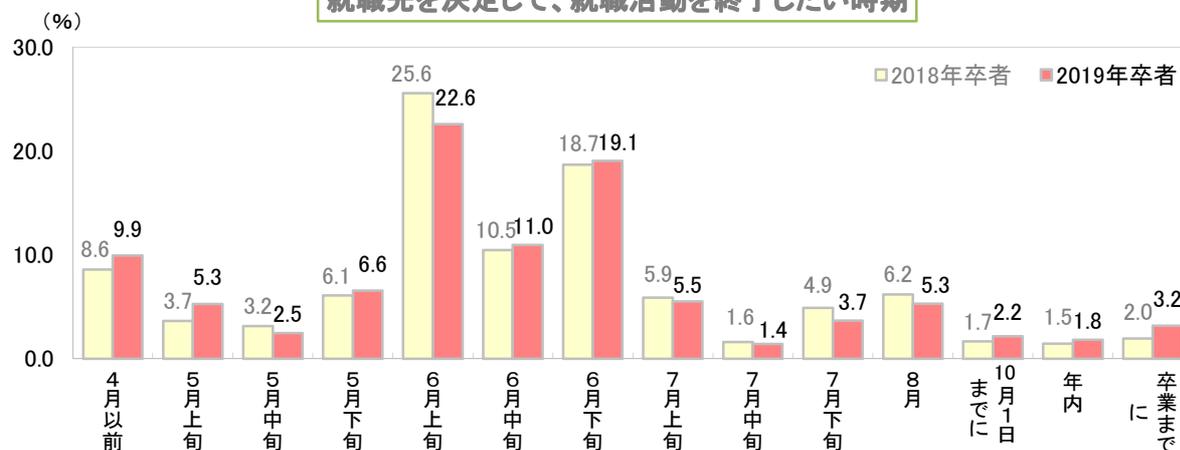
「エントリーする企業を探している」と回答した学生に、企業を探す手段を尋ねると、最も多かったのは「就職情報サイト」で8割超(83.8%)。続く「合同企業説明会」、「学内セミナー」は6割前後の学生が選んだ。WEBだけでなく、企業と直に接触できる機会も利用して、自分に合う企業を探したいと考えているのだろう。

新たな企業を探す手段



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねたところ、「6月上旬」(22.6%)が最多。前年調査(25.6%)より3ポイント減少したが、5月以前を合計すると24.3%で、前年調査(計21.6%)を3ポイント近く上回っている。6月の選考解禁を待たずに終了したいと考える学生が増加していることがわかる。

就職先を決定して、就職活動を終了したい時期

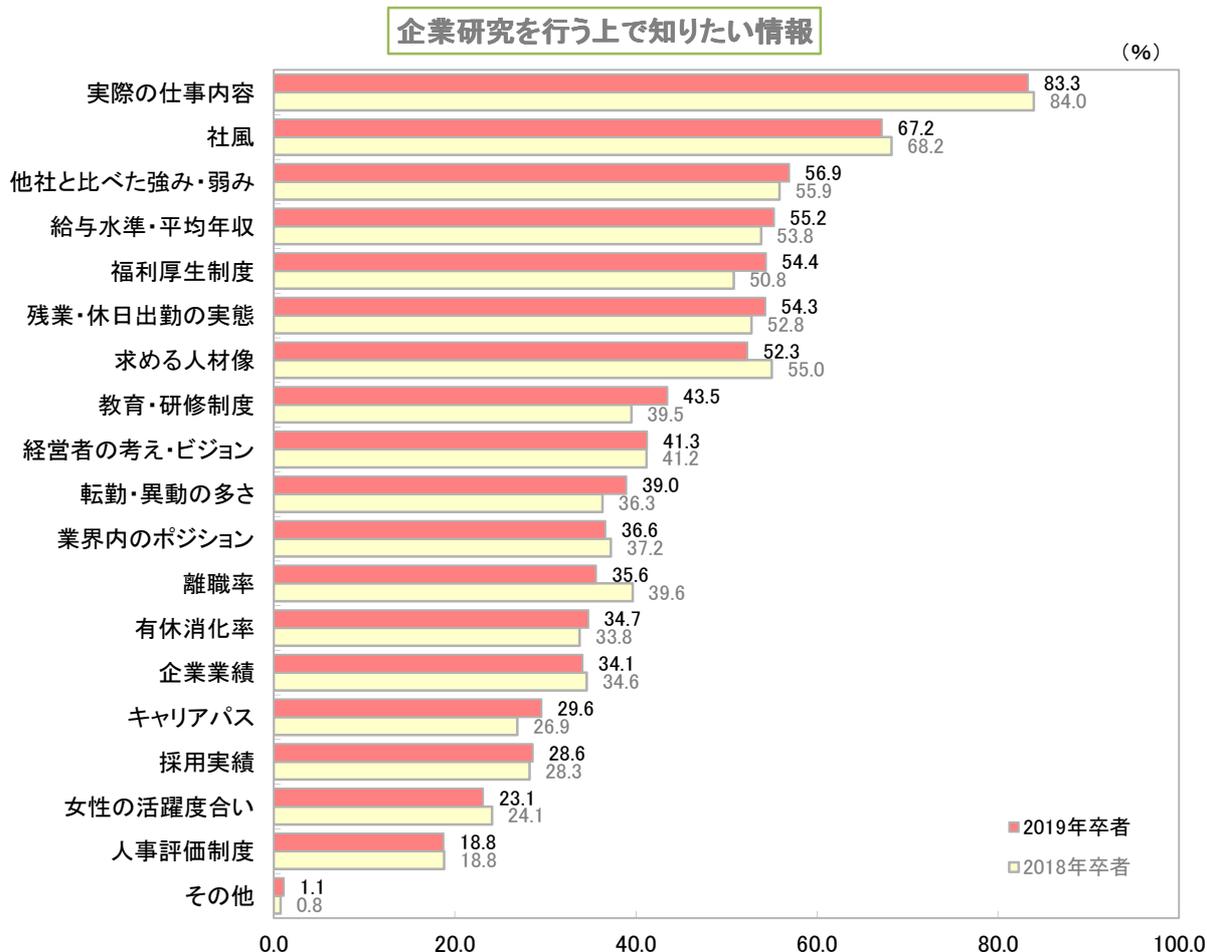


■就職活動に関して思うこと

- 手帳がすでにいっぱいになっており、物理的にすべての企業の選考を受け続けることは厳しいと感じている。
気力体力ともに、どこまで勝負できるか、大いに不安である。 <文系女子>
- 合説などで、今まで知らなかったけど実はすごい企業などにも出会えたりするので、今後の人生にとっても勉強になることだと思う。 <理系女子>
- 短時間で自分に合う企業を見つけるのは容易いことではないが、積極的に行動して頑張りたい。 <文系男子>
- 就活準備が十分に行えず、出遅れた感があるため、遅れを取り戻せるぐらい頑張らねばと思う。 <理系男子>
- 自分らしさを大切にしてくれる会社に出会いたい。 <文系女子>
- セミナーやインターンで志望企業を絞れた。自分に合いそうな企業が見つかった。 <理系男子>

9. 企業研究を行う上で知りたい情報

企業研究を進める上で知りたい情報を尋ねた。最もポイントを集めたのは前年調査同様「実際の仕事内容」で (83.3%)、次いで「社風」(67.2%) が続く。前年調査から大きな変化はないものの、「福利厚生制度」(54.4%)、「教育・研修制度」(43.5%) などが増加した。全体的にポイントが分散しており、学生が必要とする情報は多岐にわたる。企業には、様々な種類の情報の開示が望まれる。



企業選びのポイント (ネガティブチェックのポイント)

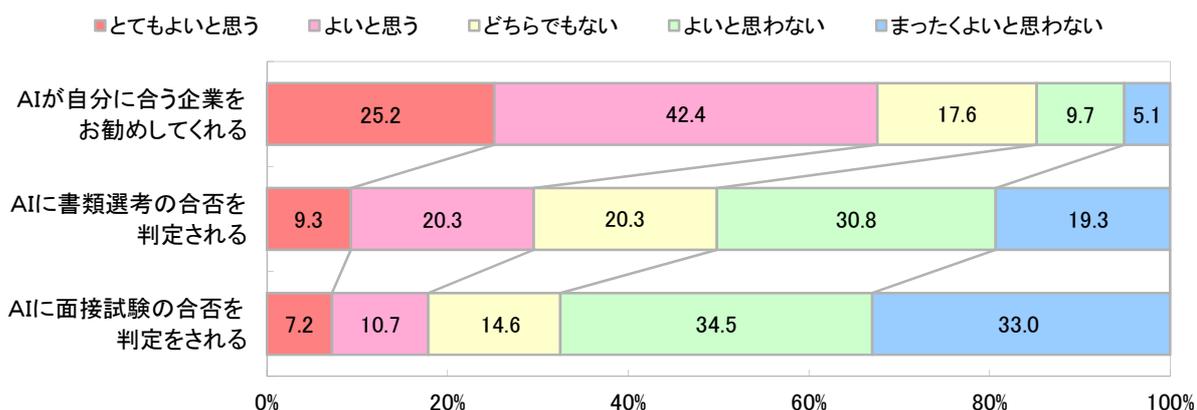
就職先企業選びにおいて、消去法で志望企業を絞り込む学生も少なくない。様々な企業を見る中で「この企業はないなあ」と思った経験やネガティブチェックのポイントを尋ねた。

- いいところばかりを紹介し、本当のことをあまり教えてくれない。 <理系男子>
- 企業説明をされる社員さんの話し方の印象が良くないとき。学生の前に出すのはまともな方にしてほしい。 <文系男子>
- ブースにいる他の社員がずっとケータイを見ていた。 <文系女子>
- 会社説明会で予告なしにエントリーシートを書かせたり適性検査を受けさせたりする企業。 <理系女子>
- 採用HPで、業務内容に関して抽象的なことしか書かれていない。 <文系男子>
- どうしてこの会社を選んだかと聞いたときに、同業他社のことを否定しているのを見るとあまりいい印象は持たない。 <理系男子>
- 固定残業 60 時間分の給料が基本給に入っている企業。 <文系女子>
- オワハラや無理なスケジュールを押し付けるなど、学生を大事にしていないと伝わってくる企業。 <文系男子>

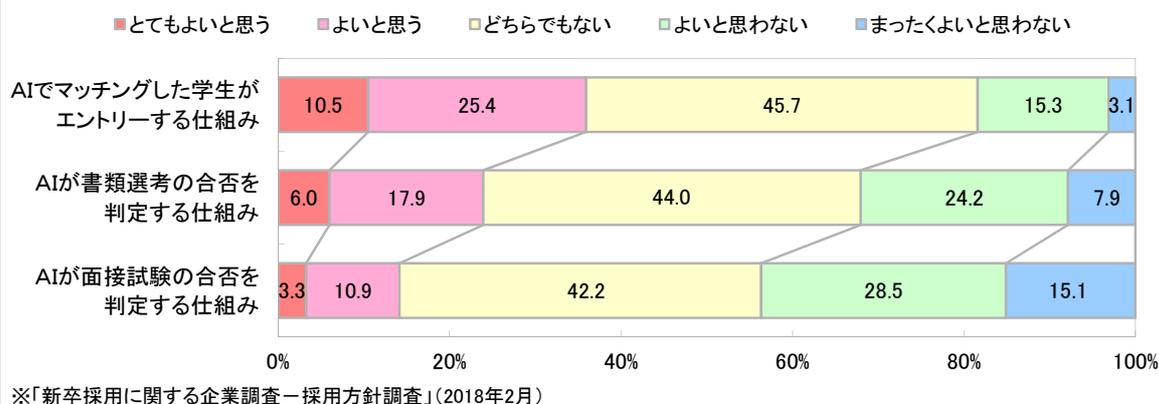
10. 人工知能 (AI) 導入についての考え

企業探しや採用試験に人工知能 (AI) が導入されることについての考えを尋ねた。「自分に合う企業をお勧めしてくれる」ことには、肯定的な学生が 7 割近くを占めた (計 67.6%)。一方で、AI に書類選考や面接試験の可否を判定されることについては、過半数の学生が否定的な考えを示した。

企業探しや採用試験に人工知能 (AI) が導入されることについての考え



【参考】採用活動に人工知能 (AI) を導入することへの考え (企業調査)



■人工知能 (AI) 導入についての考え

【賛成意見】

- 好きなものや今までの経験などから判断して、自分に合う企業をお勧めしてくれる機能があれば、自分の知らなかった仕事と出合える可能性があると思う。 <文系女子>
- 感情が入った人間の曖昧な判断より、よほどあてになると思うから。 <理系男子>
- 採用担当者との相性によって全てが決まるのは納得できない部分があるから。 <文系男子>

【反対意見】

- 面接などの判定をされるのはあまりよいと思わない。一緒に仕事をするのはやはり人間であるので、人間に判定をしていただきたい。 <文系男子>
- 面接の雰囲気なども企業を選ぶ際に考慮に入れたいため。 <理系女子>
- 評価基準がはっきりしてしまうことで、テクニックさえあれば誰でも通過できるようになるから。 <文系女子>
- AI はあくまで過去の統計データから結論を導き出すものなので、似た特徴を持つ人ばかり採用してしまう気がする。 <理系男子>